

第3学年 社会科学習指導案

指導者 梶原 隆一

1 単元名 現代の民主政治

2 単元について

(1) 生徒観

3年4組は、男子20名、女子20名の計40名のクラスである。学習意欲に差はあるものの、まじめに授業に取り組むことができている。挙手や発言は3年生4クラス全体から見るとやや積極性に欠けるところがあるものの、4人1組の小グループでの活動においては自分の考えを仲間に伝えたり、仲間の考えを聞いたりすることで自分の視野を広げたいと考える生徒が多く、小グループの活動を熱心に楽しみながら取り組む様子が見られる。

以下は、2017年6月に実施した標準学力検査における社会科の数値である。

正答率	観点別正答率		
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
校内平均	77.3	84.6	85.5
全国平均	53.0	60.1	64.5

上記の表だけでなく、定期テストやワークシートを見ても、暗記など一問一答のような物は得意だが、自分の考えを記述しようとするのは苦手な生徒が多いことがわかる。

(2) 教材観

本単元は、大単元「現代の民主政治と社会」の中単元である。前単元「個人の尊重と日本国憲法」において、生徒は個人の尊厳と人権の尊重が日本国憲法において保障されていることを学習した。本単元は民主政治への理解を深めていくことをねらいとしているわけだが、前単元で学習した個人の尊厳と人権の尊重は、みんなで話し合い決定する方法（民主主義）を進めていく上での基礎になるものと言える。また、民主主義の政治（民主政治）において、人々の意見を反映させることは必要不可欠なことであり、より多くの人々の意見を反映させるために多数決の原理を取り入れる場合が一般的である。ただし、多数の意見に耳を傾けるだけでなく、少数意見への配慮も必要なことである。

現代の民主政治は、国民の政治参加によって支えられている。情報社会の進展とともに、インターネットなどを通じて、政治についての情報収集や意見表明をすることがこれまでと比べ容易になったり、各マスメディアが定期的に世論調査を行ったりすることが一般的になってきた。また、最近であれば、6月15日に成立した「共謀罪の趣旨を含む改正組織的犯罪処罰法」をめぐるのは、全国各地で大衆運動（集団示威運動）が繰り広げられていることがマスメディアを通じて報じられるなど、多種多様な政治参加の方法が見られる今日である。そんな政治参加の最も一般的なものが選挙であると言える。特に、日本では、代表者を選挙で選び、選ばれた代表者が議会で話し合っ決めていくという議会制民主主義がとられている。10月10日に公示、10月22日に投開票が予定されている衆議院議員選挙に関する話題は、連日のように各マスメディアが報じている。

しかし、これまでの選挙の状況を振り返ってみると、国民の政治離れが深刻であることが明らかになっている。国政選挙を例にすると、昨年実施され18歳以上の男女に選挙権が認められたことで記憶に新しい参議院議員選挙であるが、1947年第1回の同選挙の投票率は61.1%を記録していたのに対し、2016年第24回の同選挙では、投票率が54.7%であった（投票率は10代が46.7%、20代が35.6%、30代44.2%となっている）。同様に衆議院議員選挙を見ても、1946年第1回の投票率が72%を記録していたのに対し、直近の2014年第47回では52.6%と大きく低下している。また、衆議院議員選挙を例に記録が残るところで年齢別の投票率を見ると、1975年第31回の選挙と比べ20歳代の投票率が

34%低下，30代の投票率も34%低下となっており，とりわけ若年層と呼ばれる人々の投票率の低下が課題となっている。特に，危惧すべきなのは選挙に行かない理由であろう。選挙管理委員会などの調査結果によると，「誰が当選しても，政治や自分の生活が変わらないと思ったから」という無力感や，「政治家は信頼できないから」という不信感，「政治のことは難しくてよく分からないから」という政治に対する無知などがあげられている。

(3) 指導観

本単元は，現行の「中学校学習指導要領（以下指導要領とする）」公民的分野の内容（3）「私たちと政治」における，「イ 民主政治と政治参加」にあたる（次期指導要領においてはC「私たちと政治」における，「(2) 民主政治と政治参加」にあたる）。

どちらの指導要領」でもこの単元のねらいとして，次のように示している。

「特に，法や政治に関する内容の学習においては，単に法が規定している内容や政治制度についての理解で終わることなく，なぜそのような規定があるのか，その規定を設けた基本的な考え方や意義を理解させたり，なぜ現在このような制度が設けられているのか，その制度を成り立たせている基本的な考え方や意義を理解させたりすることが大切である。」

指導要領ではこのような記載がされているものの，実際は制度についての理解や，その制度における課題についての理解で終わってしまっている授業が多く見られるのが現状ではないだろうか。確かに，現状を認識する上で制度や，その制度における課題を理解することは大切なことであるが，その段階で学習を終えてしまうことで，社会科の目指す「公民的資質の基礎（次期指導要領では公民としての資質・能力の基礎）を養う」ことができるだろうか。また，そのような学習で，本校社会科が研究主題として掲げる「社会の形成者としての資質・能力を育む授業の創造」ができるのだろうか。そこで今回，「どうすれば制度やその制度の課題を教える授業」から脱却できるのかを考える契機としたい。

3 単元の指導目標

- (1) 将来国政に参加する公民として，現実の政治に対する関心を持たせるとともに，積極的に関わろうとする態度を育てる。
- (2) 選挙をはじめとする国民の政治参加によって，より良い民主政治が運営されていることに気づかせ，主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 最近の選挙に関する話題や各政党の選挙公約などについて，新聞記事やインターネットなどを活用して有用な情報を適切に選択し，読み取らせたりまとめたりさせる。
- (4) 多数決の原理や選挙の仕組み，政党や世論の役割などについて理解させる。

4 単元の評価規準

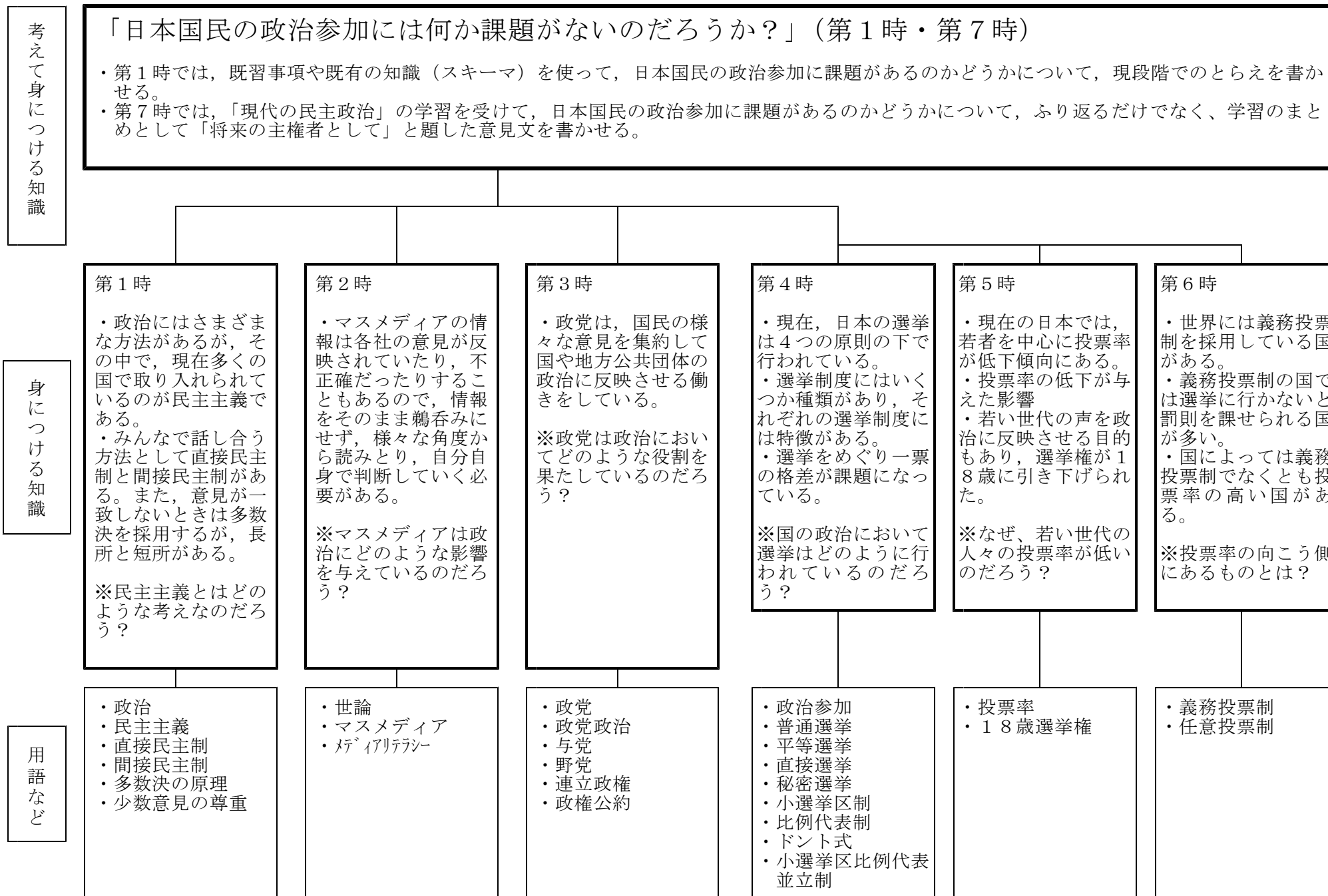
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
将来国政に参加する公民として，現実の政治に対する関心を高めるとともに，どのように関わっていけばよいか，意欲的に考えている。	選挙をはじめとする国民の政治参加によって，より良い民主政治が運営されていることに気づき，主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	最近の選挙に関する話題や各政党の選挙公約などについて，新聞記事やインターネットなどを活用して有用な情報を適切に選択し，読み取ったり，適切にまとめたりしている。	多数決の原理や選挙の仕組み，政党や世論の役割などについて理解し，その知識を身につけている。

5 単元の指導計画及び評価計画（全7時間、本時6／7）

次 (時数)	主な学習活動	評価
1 (1)	<p>「日本国民の政治参加には何か課題がないのだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現段階における学習課題についての自分なりのとらえを書かせる。 <p>「民主主義と政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動などの身近な事例から民主主義とは何か、理解する。 ・ 歴史的な経緯を踏まえ、民主主義の考え方が大切であるということに気づく。 ・ 多数決の長所と短所について、生徒の経験などをもとにしながらまとめる。その際、少数意見の尊重が必要であることに気づく。 	<p>・ 民主主義の考え方が大切であることを歴史的な経緯や身近な事例を踏まえて考え、適切に表現している。【思考・判断・表現】</p> <p>・ 議会制民主主義において、多数決の原理と少数意見の尊重が重要であることを理解している。【知識・理解】</p>
2 (1)	<p>「マスメディアと世論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の新聞記事の一面を見比べさせ、新聞社によって取り上げ方が異なることに気づき、その理由について考える。 ・ 情報をそのまま鵜呑みにせず、様々な角度から読み取り、自分自身で判断する必要があることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞記事の構成や内容を比較し、気づいたことや考えたことを適切にまとめ、発表している。【思考・判断・表現】 ・ 課題に沿って新聞記事を収集・選択し、その内容を適切に読み取っている。【技能】
3 (1)	<p>「政党と政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政党の政権公約を調べ、比較することを通して、政党や日本の政治について関心を持つ。 ・ 政党が国民と議会を結びつける役割を果たしており、民主政治において重要な存在であることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の日本の政党政治の動向や課題について意欲的に調べ、関心を高めている。【関心・意欲・態度】 ・ 政党の役割について、具体的な事例に基づいて理解している。【知識・理解】
4 (3)	<p>「政治参加と選挙①」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選挙は政治参加において重要な機会であることに気づく。 ・ 国政選挙を中心に選挙制度のあらましを理解する。 <p>「政治参加と選挙②」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選挙の課題として投票率の低下を事例に取り上げ、そのもたらす影響について立候補者・有権者それぞれの立場になって考える。 ・ 投票率が低下する中、選挙権が18歳に年齢を引き下げた理由を、新聞記事などから読み取り考える。 <p>「政治参加と選挙③」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動については、本時の授業展開を参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選挙の意義と日本の政治制度のあらましについて理解している。【知識・理解】 ・ 投票率の低下がもたらす影響について、立候補者・有権者それぞれの立場から多面的・多角的に考察し表現している。【思考・判断・表現】 ・ 選挙権が18歳に引き下げられた理由について、根拠となる資料を活用し、適切に読み取りまとめている。【技能】 ・ 評価については、本時の授業展開を参照
5 (1)	<p>「現代の民主政治のまとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したことをもとにして、「将来の主権者として考えること」を主題にした意見文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国民の政治参加におけるこれからの在り方について、表現している。【思考・判断・表現】

6 単元全体の構造図（知識の構造図）

※その授業における学習課題



7 本時の授業

(1) 日 時 平成29年10月21日(土) 10:10~11:00

(2) 場 所 山梨大学教育学部附属中学校 3年4組

(3) 題材名 「投票率の向こう側にあるものとは？」

(4) 本時の指導目標

- ・ 諸外国の選挙の様子から、投票率を向上させることについて吟味した上で、主権者として選挙において大切にしたいことを表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

(5) 全体研究との関わり

①本時において「見方・考え方」を働かせる場面

- ・ 投票率が高いことが果たして良いことなのかどうかについて吟味する場面。
生徒は、前時までの学習や児童会選挙・生徒会選挙といった体験を通して、「投票率の低下は選挙における課題であり、向上させる必要がある」・「投票率が高いことはみんなが参加しているから良いことである」という認識を持っていることが予想される。そのような認識を持つ生徒に対して投票率が高いことが果たして良いことなのかどうかを吟味させることで、元々持っていた認識が、新たなものに作りかえられていくことが期待できる。

これは、本校社会科が、研究の拠り所とした池野氏の見解にある第三の「見方・考え方」(本校社会科では「メタ認知型見方・考え方」と名付けた)に通ずると考えられる。

②本時において「見方・考え方」を働かせるための手立て

- ・ 「見方・考え方」をより働かせるための題材・教材・学習課題

今回、授業の題材に「投票率」を選んだ。教科書(東京書籍)では、「政治参加と選挙」の所で、「選挙の課題①—棄権の増加」として扱い、棄権の増加の原因や棄権を減らす対応策(期日前投票)、さらには、どうすれば投票率が向上するのかを考えさせるコラムが書かれている。

こうやって見ていくと、「選挙を棄権することは良くないこと」、「投票率が向上することは良いこと」と読み取ることもできる。確かに、教材観の所でも触れたように、わが国における若年層を中心とした投票率の低下は解決を目指さねばならない由々しき課題である。しかし、ただ単に選挙へ行くことを促し、投票率が向上すれば良いのだろうか？

また、現行の指導要領では選挙について次のように示している。

主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義を支えるものであることを理解させるとともに、良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義を考えさせることを意味している。その際、具体的な事例を取り上げて関心を高めさせるとともに、正しい選挙が行われることや選挙に参加することの重要性について十分に考えさせることが大切である。

これについては、先に指導観のところでも触れたように、制度やその制度の課題を教える授業をしてきたことが多かった私にとって、選挙に参加することの重要性について十分に考えさせられかたどうかは疑問である。

そこで、投票率の高い国々の事例をもとにしながら、投票率が高いことは良いことなのかどうかを吟味させる。さらに、前時までの学習を生かし、「投票率の低下の向こう側に見えてくる、本当に目を向けていかなければならないこと」について考えることで、「見方・考え方」がより高次に至ると考えられる。

- ・ 対話を重視すること

全体総論や教科総論にもあるように、「自己と対象世界(本時であれば投票率の高い国に関する資料)との対話」、「自己と他者との対話」、「自己内対話」をする場面を本時の中に設定するということである。例えば、「自己と他者との対話」

において、生活班とは別に学習班を作成し、その学習班のもとで授業をすることになっている。学習班は本校生徒の実態も鑑み、生徒に「学習を高め合うことができそうな仲間」ということでアンケートをとり、設定した。それぞれの生徒が働かせた「見方・考え方」を、教師が「つなげたり」・「まとめたり」してコーディネートすることで、生徒は自分の考えを更に深めたり、広げたり、枠組みを変えたりすることが考えられる。また、特に本時において重要視したいのが「自己内対話」である。授業の終末において、これまでの自分の「見方・考え方」が、本時の学習を通じてどのように変容し、新たにどのような認識になったのかを生徒も授業者も可視化することができる「ふり返しシート」を作成した。このシートを用いて自己と対話し、対話したことを記述する時間をできる限り保障したい。

(7) 展開

	指示・発問など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
導入 5分	<p>〔1 学習内容の復習〕</p> <p>・前時の復習</p>	<p>(T:教師 S:生徒)</p> <p>T: 質問する</p> <p>S: 答える</p>	①	<ul style="list-style-type: none"> ・日本では、投票率の低下が問題となっている。 ・投票率が低いと、一部の人たちだけで物事を決めることにもつながるので民主主義の危機につながる恐れがある。だから、投票率を向上させなければならない。 ・特に、若者の投票率が低く、若者の声を政治に反映させにくい現状があることや、世界的に18歳で選挙権を認めるのが多いことから、日本でも昨年から選挙権年齢が18歳以上の男女に引き下げられた。
<p><前時までの学習を通じて、生徒が抱いていると予想される見方・考え方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では若者を中心に、投票率の低下が問題になっており、投票率を向上させていく必要がある。投票率が高いと、たくさんの有権者が参加して決定することなので、民主主義に基づく政治の実現につながるため、良いことである。 				
	<p>〔2 学習課題の確認〕</p> <p>・これは何について表したグラフでしょうか。</p> <p>・なぜ、このような違いが見られるのでしょうか？</p>	<p>T: 質問する</p> <p>S: 答える</p> <p>T: 質問する</p> <p>S: 答える</p>	②	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とオーストラリア、ベルギーの投票率を表したグラフ 日本 : 54.7% (2016) オーストラリア : 93.2% (2013) ベルギー : 89.3% (2014) ・これらの国々は日本と異なり、義務投票制を採用している国である。義務投票制を採用している国は世界に32か国ある。日本は、投票に対して義務を課さない任意投票制(自由投票制)を採用している。

学習課題：投票率が高いことは良いことなのだろうか？

展開
1
15分

〔3 学習課題を吟味する①〕
・義務投票制を採用している国での選挙の様子はどうなっているのだろうか？

T：説明する
S：資料を見る

③

・オーストラリアでは、投票所となる公共施設へ行くと、お祭りのように様々な屋台が建ち並んでいる。特に人気なのがソーセージサンガーと呼ばれるオーストラリア版ホット

ドックの屋台。しかし、正当な理由がなく投票しないと20豪ドル（約1600円）の罰金を支払わなければならない。また、選挙には行かなければならないが、投票の際に白票を入れることは認められている。2010年に行われた選挙では、全投票数の6%が無効票（昨年、日本で実施された参議院選挙での無効票は2.5%）であり、イギリス放送協会（BBC）はオーストラリアで義務投票制への反発が起きているのではないかと報道した。
・ベルギーでは、投票の義務を怠った場合、罰金を支払わなければならないが、2回目以上になると、支払う額が2倍になる。さらに、15年間で4回以上投票を怠ると、選挙権を10年間失い、公職にも就けなくなる。もし公務員だったならば、昇進も差し止められてしまう。投票の際に白票を入れることは認められているため、無効票の割合が多いという問題点がある。

世界には、投票率が約99%を誇る国があります。どんな国だと思いますか？

T：質問する
S：答える

・オーストラリアやベルギー以上に厳しい罰則のある国なのではないか。
・一つの政党が独裁政治をしている国ではないか。

・ベトナムの選挙の様子は、どうなっているのだろうか？

T：説明する
S：資料を見る

④

・ベトナムは日本と同じ自由投票制を採用する国である。2016年に行われた選挙の

投票率は98.7%だった。ベトナムでは、投票所が学校などの公共施設の他に、会社の中やマンションのロビーのように町中の至る所に設けられていて、投票に行きやすい環境が整えられている。しかし、投票率が低いと地区ごとの選挙管理委員会が成果を問われるため、投票所に来てない人がいると委員がその家に足を運び、投票に来るように促す。また、投票所に来た際、身分証明書の提示をしなくて良いので、家族を中心に代理投票が横行している。そのため、これまで一度も投票所を訪れたことのない人もいる。

○高い投票率を誇る国々の様子を見てきましたが、投票率が高いことは良いことなのだろうか

T：発問する
S：考えをホワイトボードにまとめる
S：発表する

・罰則を設けることで、投票率が上がるのであれば、日本も取り入れるべきではないか。
・投票を義務制にすることは、参政権の侵害になるのではないか。
・投票率が高くても、無効票が多いのであれば意味がないと思う。
・投票率が98%でも、代理投票が横行しているのであれば、しっかりとした選挙が行われていないと言えるのではないか。

<本時のここまでの学習を通じて、新たに作りかえられたり、変容したりしていくことが予想される生徒の見方・考え方>

・日本では若者を中心に、投票率の低下が問題になっていて、投票率を向上させていく必要がある。投票率が高いと、たくさんの有権者が参加して決定することなので、一見すると良さそうに見えるが、選挙への参加が強制だったり、代理の人によるものだったりするのでは、民主主義に基づく政治の実現につながらないのではないか。投票率という数字だけで判断するのは、危険である。大切なのは一人一人の有権者が投票に向かう前に、日頃から政治と自分の生活とのつながりを感じたり、政治について仲間と語り合ったりして政治を身近なものにとらえていることではないだろうか。

<p>展開 2 20 分</p>	<p>〔4 学習課題を吟味する②〕 ○選挙の課題として、前の授業で日本におけるの投票率の低下問題注目し、今日の授業では高い投票率を誇る世界の国々の様子に注目して考えてきましたが、主権者としての私たちが本当に目を向けていかなければならないことは何でしょうか？</p>	<p>T：発問する S：思考する S：自分の考えを用紙に書く S：同じグループやクラスの仲間と意見を交換し、ホワイトボードにまとめる S：発表する</p>	<p>・TVや新聞で政治の話題について関心を持って見る ・無関心からの脱却 ・家族や仲間と政治的な話題について語り合う。 ・日本にはどんな政党があって、どんな理念で政治活動を行っているのかを調べるなど、とにかく政治についての知識を身につけること。 ・人任せにしない。 ・議会を傍聴しに行く。</p>
<p>まとめ 10 分</p>	<p>〔5 本時のまとめと次時の確認〕 ・今、みなさんが考えてくれたことのいくつかを既に行っている国があります。どの国だと思いますか。</p> <p>・今日の学習で学んだことや考えたことを授業前の自分の考えと比較しながら、ワークシートに記述しよう。 ・この単元のまとめということで次回、「将来の主権者として考えること」という主題で意見文を書きます。</p>	<p>T：質問する S：答える T：説明する S：聞く</p> <p>T：指示する S：書く</p>	<p>⑤ ・スウェーデンの様子を紹介する。 家族で政治的な話題について語ったり、12歳から政党に入ることができたり、地域の政治家が来校し討論したりする等政治を身近に感じられる環境が作られている。ちなみに、日本と同じく任意投票制を採用しており、投票率は83%（2014年）。18歳～24歳の投票率は約82%と、若者の投票率が高い。</p>

(8) 評価基準

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する生徒への支援
<p>日本では若者を中心に投票率を向上させていかなければならない現状がある一方、諸外国の選挙の様子から、投票率という数字だけでは民主主義に基づく政治が実現されていると判断できない場合がある。さらに、主権者として選挙において投票率以外に大切にしたいことを、様々な視点から考え、その理由とともに表現しようとしている。</p>	<p>諸外国の選挙の様子から、投票率という数字だけでは民主主義に基づく政治が実現されていると判断できない場合がある。さらに、主権者として選挙において投票率以外に大切にしたいことを、その理由とともに表現しようとしている。</p>	<p>学習課題を吟味し、個人指導を行い、これまでの学習内容を想起させるようなアドバイスを通じて、学習を支援する。</p>

(9) 「学習課題を吟味する②」に対する学習到達度

	S	A	B	C
内容	<p>主権者として選挙において大切にしたいことを心情面（関心を持つなど）だけでなく、行動面（新聞やテレビのニュースを見る等）といった他の視点と関連させて表現することができる。さらに、視野を広げ、日本国民の政治参加の在り方について表現することができる。</p>	<p>主権者として選挙において大切にしたいことを心情面（関心を持つなど）だけでなく、行動面（新聞やテレビのニュースを見る等）といった他の視点とからめて表現することができる。</p>	<p>主権者として選挙において大切にしたいことを心情面（新聞やテレビのニュースを見る等）から表現することができる。</p>	<p>主権者として選挙において大切にしたいことを表現することができない。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><手立て> 本時で提示した資料の見直しを促したり、仲間のものを参考にさせたりする。</p>

(10) 板書計画

<p>Q：投票率が高いことは良いことなのだろうか？</p>	<p>【主権者として目を向けていくこと】</p>	<p>ホワイトボード</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> </div>	

※この他にもテレビ画面を用いて、資料を提示していく。

9 資料・参考文献

- ・「中学校学習指導要領」 (2017) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説」 (2017) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領」 (2008) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説」 (2008) 文部科学省
- ・大西裕編「選挙ガバナンスの実態 世界編」(2017) ミネルヴァ書房
- ・斎藤一久編「高校生のための選挙入門」(2016) 三省堂
- ・「シリーズ日本の政治4 政治参加と民主政治」(2016) 東京大学出版会
- ・「話したくなる世界の選挙～世界の選挙をのぞいてみよう～」(2016) 清水書院
- ・日本学術会議 政治学委員会 政治過程分科会「提言 各種選挙における投票率低下への対応策」(2014)
- ・アントレ レイハルト「民主主義対民主主義 多数決型とコンセンサス型の36か国比較研究」(2005) 勁草書房
- ・池野範男, 渡部竜也, 竹中伸夫「国家・社会の形成者を育成する中学校社会科授業の開発」(2004) 日本社会科教育学会 社会科教育研究